

校長が考える学校経営の「一步先へ!」を実現する!

学校経営マネジメントを深化させていくことがいかに重要かを考える!

令和4年1月20日付、教義学第372号「『令和4年度 学校経営アクションプラン』の作成・提出について(依頼)」は、市町村教育委員会を通じてすでに確認していただいていると思います。

この依頼文に添付されていましたが「令和4年度学校経営アクションプラン作成に当たって」についても確認していただいていると思います。

昨年度末に各学校に送付されました説明動画についても、改訂版が近日中に送付される予定であると聞いています。

この内容については、ぜひ教頭先生だけでなくミドルの先生方にも見ていただき、APについての共通理解を図っていただきたいと思います。全教職員で共通理解を図られるのもよいと思います。

本号では、APを核にした学校組織マネジメントの重要性について改めてお伝えしたいと思います。

岡山県では、令和2年度より学校経営アクションプランを各学校が作成し、学校全体で取り組んでいくための支援として、「管理職のビジョンと戦略を支援する学校訪問」を年2回実施しています。

この2年間の取組により、学校の組織的課題解決力は着実に向上するとともに、小・中学生の学力は徐々にではありますが向上傾向にあります。

教職員一人一人の弛まない努力の成果が、子どもたちの力となって着実に現れてきているのではないかと思います。

しかしながら、近年、これまで学校を支えてきた多くのベテラン教職員が退職を迎え、若手教職員の育成、全国的な労働力不足の中での人材確保、そして学校における働き方改革が課題となる中、生徒指導や特別支援教育など複雑化・多様化する様々な課題の解決を図るためには、教職員や学校内の多様な人材が目標に向かって組織的に取り組むことが不可欠になっています。



このような時代にあって、学校組織マネジメントを機能させ、組織的課題解決力の向上を図ることで持続的・発展的な教育活動の実現を目指す「学校経営アクションプラン」の取組は、これまで取り組んできたことの達成感を味わいつつも、学校経営の基本に据えて、今後も質を向上させていく必要があります。

校長先生方には、教育活動を組織的・効率的に進め学校のパフォーマンスを最大化していただきたいと思います。

そのためには、目標達成マネジメントと組織マネジメントを両輪とする学校経営マネジメントを基盤として、教職員の人材育成や働き方改革を進めつつ、教育課程の充実や「地域とともにある学校」として家庭や地域との連携を図るなど、これまで以上に広範かつ積極的なマネジメント力が求められています。

また、見直すべき学校運営体制や取組等はスピード感を持って積極果敢に改革するリーダーシップも期待されています。

以上のようなことから、来年度に向けて準備をされている学校経営計画や学校経営アクションプランは、校長先生だけが考え作成し教職員に周知を図るのではなく、人事異動があったとしても4月から教職員一人一人が自分事として捉え、学校全体として取り組めるように、しっかりとした準備を進めておく必要があります。

ご相談は学校経営アドバイザー（山田）まで！

管理職のビジョンと 戦略を支援する学校訪問

—学校経営アクションプランの深化—

令和4年度学校経営アクションプラン作成に当たって

岡山県教育庁義務教育課

「学校経営AP」のねらい

校長が考える学校経営の「**一步先へ!**」を実現する。



取組の「質」を高めるためには…

- 「学校の現状」を踏まえ、「目指す姿」との差である【課題】を明確にした上で共有し、全教職員で課題対応・解決に向けた**ベクトルを揃え、組織的に課題解決を図る体制**をより強固なものにする。
- 課題を解決するための【重点的取組】を推進するに当たり、ミドルリーダーたる主任等に責任感をもたせ、教職員個々に**課題を「ジブンゴト」として捉えた実践を積み重ねる**ことで、組織的な取組の推進と個々の力量向上を図る。



ベクトルには向きと大きさがあります。その「向き」が校長先生の学校経営方針で、「大きさ」は向きに対する各教職員の意識や行動と言えます。教職員の「ベクトルを揃える」ためには、全員が「同じ方向（目標）を目指して進む」指標（学校経営AP）が鍵になりますね。